

お知らせ

本教会へ初めて来られた方々を
心から歓迎いたします。
「毎月最初の主日には聖餐式を行います。」

教会の働き

創立 32 周年記念礼拝

2月22日(日)は、飯田福音教会 創立 32 周年記念礼拝です。また、午後には創立 32 周年お祝い礼拝を行います。これまで教会を守り導いてくださった主に感謝し、共に喜びを分かち合う時といたします。当日は、記念品も用意しております。この恵みの機会に、ご家族やご友人もぜひお招きください。共に主の恵みと喜びを分かち合いましょう。

- 今日、愛餐会の時に、2月の小グループの交わりを行います。食事と交わりを通して、メッセージの恵みを主にあって分かち合い、証しの時ともなります。どうぞご参加ください。
- 松本聖潔教会の伊藤正明先生の体の癒しの為に祈りましょう。

聖徒の為に祈りましょう。

- ・施設に入られている方々の生活が守られる為に。
- ・YouTube ライブで、礼拝している教会と聖徒の皆さんの為に。



名もなき偉大な教会
使徒の働き 9:17-25

…「兄弟サウロ。あなたが来る途中であなたに現れた主イエスが、

私を遣わされました。あなたが再び見えるようになり、聖霊に満たされるためです。」するとただちに、サウロの目から鱗のような物が落ちて、目が見えるようになった。そこで、彼は立ち上がってバプテスマを受け、食事をして元気になった。サウロは数日の間、ダマスコの弟子たちとともにいて、ただちに諸会堂で、「この方こそ神の子です」とイエスのことを宣べ伝え始めた。…かなりの日数がたち、ユダヤ人たちはサウロを殺す相談をしたが、彼らの陰謀はサウロの知るところとなった。彼らはサウロを殺そうと、昼も夜も町の門を見張っていた。そこで、彼の弟子たちは夜の間に彼を連れ出し、籠に乗せて町の城壁伝いに降り降ろした。

来週礼拝奉仕者

主日礼拝 柳澄香(賛美リーダー) 熊谷茂美(祈祷)

夕方賛美礼拝 韓芽唯(賛美リーダー)松島スヤンティ(祈祷)

水曜礼拝 北原孝子(司会) 松島スヤンティ(祈祷)

2026 年 祈 禱 題 目

1. 神の御心を求める礼拝と祈りが満ちる教会。
2. 次世代(子ども、若者)が主に召され、信仰に立つ祝福。
3. 福音宣教に献身する者、次世代リーダーが起こされるように。

週報 2026-7 号

2026.2.15

神の計画の中を歩む教会

日本福音宣教連合
宗教法人 イエス・キリスト

飯田福音教会



395-0807 飯田市鼎切石 3883-4

TEL 0265-56-8286

www.iidahc.com

牧 師 柳 承吉(ヤナギ ショウキチ)

副牧師 柳 智愛(ヤナギ チエ)

主日礼拝

AM 11:00~

賛美リード 柳澄香

信仰告白 (使徒信条)
代表祈禱 平澤寿子
特別賛美 インマヌエル聖歌隊
お知らせ
聖書箇所 使徒の働き 9:17-25
(名もなき偉大な教会)
メッセージ 柳承吉牧師
賛美 神の家族
祝 禱 柳承吉牧師

夕方賛美礼拝

PM 2:30~

賛美リード 韓芽唯

代表祈禱 熊谷茂美
聖書箇所 マルコの福音書 2:13-17
(罪人を招くために来られたイエス様)
メッセージ 柳承吉牧師
主の祈り

水曜礼拝

PM 7:00~

司 会 高木はつ江
代表祈禱 鈴木真由美
聖書箇所 ローマ書 9:15-23
メッセージ ローマ書 9章の概略(6) 柳承吉牧師
主の祈り

今週の御言葉 名もなき偉大な教会

使徒の働き 9:17-25

聖書には、エルサレム教会、アンティオキア教会、エペソ教会など、よく知られた初代教会の名が数多く登場します。しかし、その中にあって、名前はあまり語られないにもかかわらず、福音の歴史を大きく支えた教会があります。それがダマスコの教会です。

ステパノの殉教後、エルサレム教会は激しい迫害を受け、多くの信徒が各地へ散らされました。ダマスコはその避難地の一つであり、そこに信徒の群れが形成され、成長していました。

だからこそサウロは、大祭司の公文書を携え、遠く離れたダマスコまで迫害の手を伸ばそうとしたのです(使徒 9:1-2)。それは、ダマスコの教会が霊的影響力を持つ存在であったことを示しています。

しかし主は、ダマスコ途上でサウロに現れ、彼を打ち砕かれました。けれども、主はその劇的な回心体験だけで彼を使徒パウロにされたわけではありません。主はサウロを教会の交わりの中に置き、そこで養い、整えられました。

アナニアは恐れながらも主の命令に従い、サウロに近づきます。そして彼を「兄弟サウロ」と呼びました(9:17)。この一言に、赦しと受け入れの福音が凝縮されています。かつて教会を迫害した者を、教会は兄弟として迎え入れました。サウロは洗礼を受け、食事を与えられ、共同体の中で回復していきます。パウロ自身の回想によれば、彼はダマスコとアラビア

で三年間を過ごしました(ガラテヤ 1:16-18)。

この期間、教会は彼を急がせることなく、忍耐をもって支えました。巨木が一朝一夕で育たないように、神の器もまた、共同体の愛と待つ姿勢の中で育てられます。

やがてサウロに命の危機が訪れたとき、弟子たちは夜、彼をかごに入れて城壁からつり下ろし逃がしました(使徒 9:25、Ⅱコリント 11:32-33)。

名もなき信徒たちの忠実な手が、後に世界へ福音を広げる器を守ったのです。彼らは自分たちの行為がどれほど大きな意味を持つかを知らなかったでしょう。しかし、その善い行いは神のご計画の中で用いられました。

私たちの教会も、ダマスコの教会のように、互いを受け入れ、励まし、待ち、支える教会でありたいと願います。目立つ働きだけでなく、見えないところでの忠実な愛こそが、神の御業を前進させます。

善さを広げる教会として、主に用いられる群れとなりましょう。

愛する聖徒の皆さん。

名は残らなくても、主の御手に用いられる教会があります。大きく語られなくても、福音史の要所を支える教会があります。ダマスコの教会はその代表です。私たちも、互いを「兄弟」「姉妹」と呼び、受け入れ、待ち、支え、守る教会となりましょう。

力を奪う教会ではなく、力を与える教会に。善さを広げる教会に。主が私たちを、そのように用いてくださいますように。共に祈りましょう。